JAPAN TEACHERS' UNION
—教え子を再び戦場に送るな—
Kumi 愛力 JTU ほっきゅう NO.33
2024. 11. 8
北九州市教職員組合にゅうす

教職員セミナー「夢みる校長先生」上映会、開催される！その３

感想の続きです。

○少しでも現場に返していきたい。（若い先生が、もがきながら毎日を送っているので。）子どもたちが毎日楽しく登校できる場所をつくるために。（小学校　60 代）

○校則なし、宿題無し、テスト、通知表なし…どれか一つでも現役時代実践したかったなあと思いました。各地方で学校教育が違います。私は、若い頃関西で教員をしておりました。そこでは宿題がありませんでした。絵画も作品展はありましたが優劣をつけたりはしません。かなり自由だったと思います。北九州に来てから教員をすると自分の子ども時代と全く変わらぬ姿がありました。昭和の前例がしっかり生きていました。窮屈さにつかれました。子どもたちの自由な発想を基に活動することが本当の民主主義を体感し、平和な世界をつくる心を育てると思いました。（小学校　60 代）

○こんな校長が北九州にも増えてほしいです。通知表もテストもいらないというのは賛成です。社会に出るまでは（高校までは）否定されない環境を子どもたちに作ったほうがいいと思います。「変態」と言われた校長の言っていた内容が Steiner のメタモフォーゼと繋がっていると思い共感しました。まほろばスタジオをチェックしたいと思いました。コロナでマスクやらいろいろ条件が増えた学校教育の中、修学旅行や行事を行った校長はすごいと思いました。（小学校　60 代）

上映の後、この映画をずっと応援しているお二人の方からお話をしていただきました。

○梶山智子さんのお話

10年前まではいわゆる西洋医学のど真ん中にいました。しかし発達障害の長男、コロナ禍の中での次男の突然の不登校を経験する中で、西洋医学に行き詰まりを感じ、本来私たちに備わる命の力を生かす医療や教育に興味関心が移ってきました。次男はコロナ禍の5年生の時に不登校になりました。その理由を尋ねると「学校が学校でなくなったから」。コロナ禍では、友達と触れ合う機会もなくなり、食事中におしゃべりも禁止、遊びも制限、それは次男にとっては学校ではないということなのです。学校は勉強をしに行くところと思っていましたが違っていたんですね。そこで出会ったのが、この「夢見るシリーズ」でした。先生方が生き生きと活動していると子どもたちも生き生きしている。この映画を一人でも多くの人に見てもらいたいと思い活動しています。

私たちは先生方の応援団になりたいのです。また私は内科医なので、どうしても医療のことを外して考えることはできません。子ども達を取り巻く環境、食、そしてワクチンにしても、本当に大切なことは何なのか、しっかりと考えていく必要があると思うのです。そしてこれからの子どもたちには、主体的に自分で考えて行動する力が必要になってくると思うのです。子ども達や先生方が生き生きと活動できるよう、これからも応援してきたいと思います。

○梅本邦子さんのお話

自分の娘が中一の時に子宮頸がんワクチンを接種し、その後遺症で高校に通えなくなりました。欠席が増える中、学校から進められ、退学することを余儀なくされました。そしてその当時の娘の友達が、「なんと話しかけていいかわからなかった」と言っていたのを聞いて、愕然としたのです。学校は勉強をするところですが、人との関係、優しさを学ぶ場でもあってほしいと思うのです。先生方にはぜひそんなところも大切にしていってほしいと思います。

田中書記長から全組合員のみなさんへ

今回のセミナー参加者の半数は未加入者のみなさんでした。これまで様々な学習会やセミナーを教文部や組織部が中心となって計画してきました。しかし、どれだけ素晴らしい内容を用意しても、みなさんが参加しないと何にもなりません。学校現場の忙しさは想像できますが、全組合員で組合行事を盛り上げていきましょう！

年間、一行事でいいので参加することを要請します！

わからないこと・困ったことがあったら…　何でも気軽にお問い合わせください！
///JTU 北九州市教職員組合　〒802－0072　小倉北区東篠崎３丁目４－１
E-mail:jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp　北九州教育会館　TEL（093）953－0381